

[様式 1 1]

事業者名：美術館運営情報の拠点形成事業

事業者名：全国美術館会議

連携事業館名：金沢21世紀美術館、福島県立美術館、  
和歌山県立近代美術館

外観写真

住所：石川県金沢市広坂1丁目2番1号 金沢21世紀美術館内

TEL：076-220-2828

FAX：076-220-2829

HPアドレス：<http://www.zenbi.jp/>

### ①施設概要

(ウェブサイト上)

### ②事業の意図目的

本事業は、全国美術館会議ホームページを開設し、利用価値の高いコンテンツを掲載することによって、広く美術館運営にかかわる人々、および美術館活動に関心をもっている人々の利用に供するとともに、全国の美術館と、美術館サポーターたち・美術館ファンたちが連携し、新たなネットワークを築いていく上での情報拠点を形成することを目的としました。

### ③事業概要

全国美術館会議ホームページを開設し、同会議がこれまで蓄積してきた有用なアーカイブ（学芸員研修会報告書他の各種報告書、総会報告書等）を整理したのちに、会員館用のページにPDF形式およびHTML形式で掲載しました。開設後はこのアーカイブを、一般公開できる、わかりやすい文章に順次書き換える作業を行い、一般用のページに掲載していく予定です。（たとえば防災、保存、教育普及、情報処理、指定管理者制度、寄付税制、著作権、美術館ボランティア等々）

また本事業においては、今後の美術館運営にとって共有すべき、利用価値のある情報ないし事例報告は何なのか、美術館活動に関心をもつ人々はどうのような情報をもとめているのか、各研究部会の幹事を通して、研究部会メンバーに意見とアイデアを求めました。その結果、教育普及研究部会の協力をえて、本ホームページ上に「人々と美術館」という項目を設け、「美術作品を見に来る来観者」といった従来の固定的な枠を超えた、人々と美術館の間の多様な関係、先進的な事例を全国各地に取材し、紹介することになりました。また会員館のホームページのリンク集及び小規模館ネットワークのリンク集等を作成し、全国美術館会議ホームページが今後、「人々と美術館」コーナーを含め、芸術の拠点となっていけるよう基盤を整備しました。

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物    テキスト    ワークシート    その他（全美術館会議ホームページ）

作成した報告書等

ビデオ    (    )  
冊子    (    )  
その他    (    )

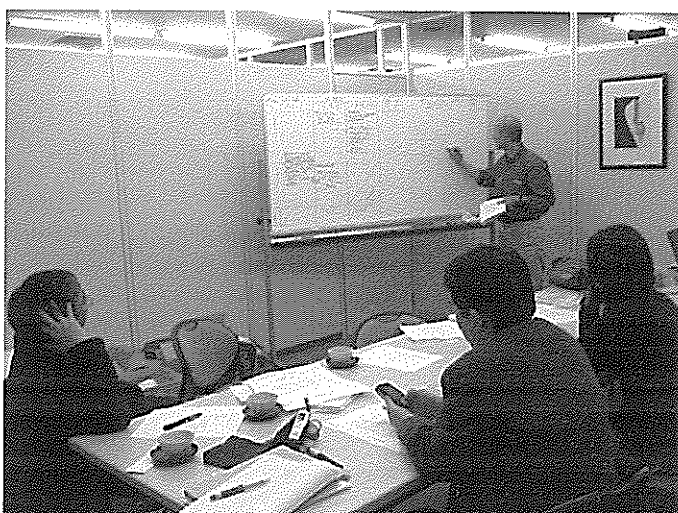
### ⑤参加者状況

参加者人数    延べ    人  
内    訳

# (1) 事業の実施状況について

全国美術館会議（以下「全美」と略記）のホームページ（以下「HP」と略記）を開設するという事業が、「芸術拠点形成事業」として文化庁の支援をうけ、正式にスタートしたのは2005年9月15日からです。

2004年10月に開かれた第1回HP開設・運営研究部会以来、全美HPの構想は少しずつ練られていましたが、わたしたちがHP開設後、いつの日か実現させたいと望んでいたのは、全美のこれまでの出版物をHPの中に掲載するということでした。（図1）



（図1）HP開設・運営研究部会の会合の様子

この願いは、「芸術拠点形成事業」として支援を受けることで、まったく予想外のスピードで実現しました。つまり、金沢21世紀美術館の倉庫に眠っていた出版物の調査が2005年9月中旬から本格化し、整理された計77冊の出版物は9月末からPDF化され、OCR（光学読み取り装置）によってテキスト化されたのです。テキスト化された文章は、5ヶ月間にのべ140人の手によって校正され、2006年3月中旬にはほぼすべてが全美HP（会員館のページ）に掲載されました。（図2）

年度	号数	題名	発行日
2005(平成17年度)	第4号	平成16年度事業報告 平成17年度事業計画 特別調査レポート「美術館と関係にあるのか?」/ 藤田 隆雄 監修 東京大学 池田 忠雄 監修 東京大学 平成16年度事業報告 平成16年度事業計画	2005.10.15
2006(平成18年度)	第5号	特別調査レポート「美術館の今後のあり方」/ 藤田 隆雄 監修 東京大学 池田 忠雄 監修 東京大学 平成17年度事業報告 平成17年度事業計画	2006.10.15
2007(平成19年度)	第6号	特別調査レポート「美術館の今後のあり方」/ 藤田 隆雄 監修 東京大学 池田 忠雄 監修 東京大学 平成18年度事業報告 平成18年度事業計画	2007.10.15
2008(平成20年度)	第7号	特別調査レポート「美術館の今後のあり方」/ 藤田 隆雄 監修 東京大学 池田 忠雄 監修 東京大学 平成19年度事業報告 平成19年度事業計画	2008.10.15

（図2）総会報告書のアーカイブページ

さて、そのように会員館のサイトに掲載された全美アーカイブは、今後、著作権者の了解をとりながら、よりわかりやすい文章、共有できる内容にして公開していく必要があります。外に向かっていく、公開していくという意味で（これも「芸術拠点形成事業」の支援により予想外のスピードで完成しました）、会員館のリンク集（図3）、小規模館ネットワークのリンク集（図4）、ホームページを持たなかった美術館の紹介ページ（図5）等は、一般の方々にとってたいへん有意義なコンテンツ・情報拠点になったと考えます。

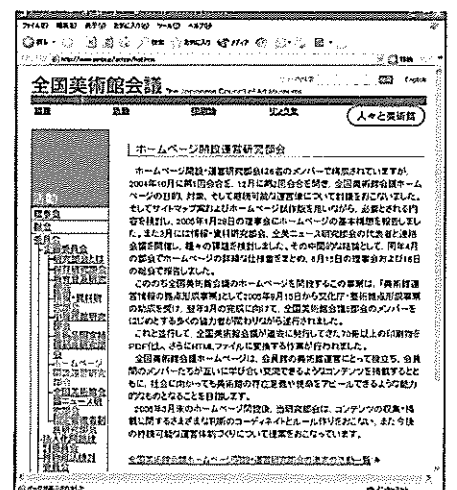


(図4) 小規模館ネットワークのリンク集



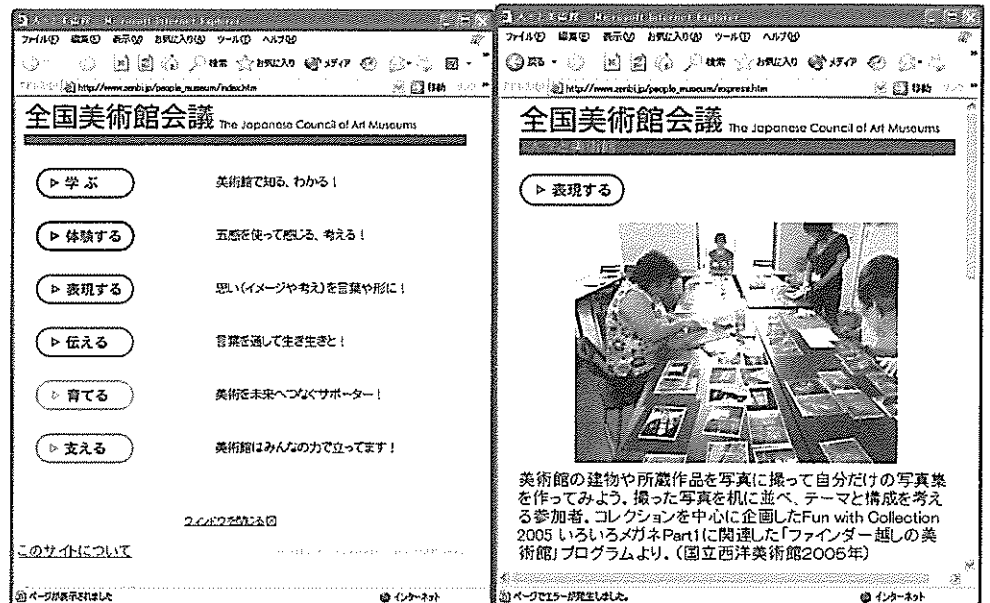
(図5) ホームページを持たなかった美術館の紹介ページ

また、全国美術館会議の活動を支える各委員会や8つの研究部会も、今回のHP開設を機に、自らの活動をわかりやすくまとめ一般公開のページに掲載しましたが、このサイトが会員館のみならず、一の方々の関心も集めて、今後さらに発展していくことは間違いないと思います。(図6)



(図6) HP開設・研究部会の紹介ページ

さらに、全国美術館会議が今後一般の方々に向けて語りかけ、一般の方とともに考えていくための新しいコンテンツも設けられました。教育普及研究部会の協力をえて企画された「人々と美術館」です。(図7) これは「美術作品を見に来る来館者」といった従来の固定的な枠を超えた、人々と美術館の多様な関係、先進的な事例を全国各地に取材し、紹介するというもので、全美HPという「芸術拠点」にふさわしいコンテンツに発展していくよう、メンバーとともにさらに工夫したいと考えています。美術館の建物や名品だけでなく、人々と美術館の多様な関係を紹介していくというこの志向性は、全美HPのフロントページを飾る8分割の画像にも表現されています。(図8)



(図7) 「人々と美術館」のページ



(図8) 全国美術館会議ホームページのトップページ

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

「全国美術館会議の活動の一層の充実をはかれるようなコンテンツ、また会員館の美術館運営にとって役立ち、会員間のメンバーたちが互いに学び合い交流できるようなコンテンツを掲載するとともに、社会に向かっても美術館の存在意義や使命をアピールすることを目指す」。

開設した全美HPには、その目指す方向がこのように記されています。全美HPは、芸術拠点形成事業という強い推進力によって基盤整備がなされ、短期間で開設にいたったわけですが、ここでいう基盤整備とは「全美アーカイブの掲載」「リンク集の充実」「〈人々と美術館〉」のような芸術拠点的コンテンツの設置」だけではありません。海外の先進的な美術館アソシエーションのホームページを調査する過程で、わたしたちはそこに「社会に向かっても美術館の存在意義や使命をアピールすることを目指す」という確固とした姿勢を学びました。全美の多くのメンバーの要望もあって、美術館の使命と全国美術館会議の役割が、フロントページの文章というかたちでこれまでになく明瞭なものになったことは特筆すべきであり、これも間違いなく芸術拠点形成事業の効果によるものといえます。

全美コンテンツの検討、コンテンツの収集・作成・編集、著作権の処理にはHP開設・運営研究部会員、各研究部会の幹事、報告書作成時のリーダー、翻訳者、全美事務局員をはじめとする約30名のメンバーが関わり、芸術拠点形成事業の期間中だけで8回の公的なミーティングが開かれ、のべ86名のメンバーが参加しました。(図9)



(図9) 各研究部会代表幹事を交えての会議の様子

芸術拠点事業が与えたこのような意見交換、情報交換の場が、メンバー同志の日常のメール交換をもたいへん活発にさせて、全美HPを芸術拠点として今後発展させていくための確かなステップになったことは、今回の支援への感謝の意も込めてご報告しておきたいと思います。(注2)

(注1) もちろん認証のかかった会員館のサイトではあれ、すべての出版物をHP上に掲載することはできません。著作権者から承諾を得られなかったコンテンツはもちろんのことですが、美術館警備上の情報、美術作品の被害・劣化の調査報告、美術館の環境の調査など作品所有者や所蔵館にとって情報公開がマイナスに働く可能性のあるものは、認証が破られたときのことを想定して、原則として掲載しないというルールが作られました。例外的に掲載するのであれば、関係するメンバーの間で慎重に検討してから著作権者に了解をとるという方法がとられました。

(注2) HP開設・運営研究部会のメンバーたちは、期間中の6ヶ月の間に全美HP関係でそれぞれ1000件を超えるメールをやりとりしています。

## (2) 事業日程

実施時期	場所・連絡方法	実施事項		摘要
2005年8月18日-19日	金沢21世紀美術館	「美術館運営情報の拠点形成事業」に関する準備会議	企画書、見積書について検討した。今後の作業分担について話し合った。	出席者：8名 名簿は別紙（旅費は各所属負担）
8月20日-9月14日	連絡方法：メールおよび電話	コンテンツの立案	コンテンツの内容、方向性、字数、写真データ内容を立案した。原稿依頼のルール作りをした。	全美HP研究部会
9月15日-16日	金沢21世紀美術館	全美アーカイブおよびサイトマップ検討会議	全美アーカイブ（印刷物）の調査をおこなった。フロントページ及びサイトマップの構成を詳細に検討した。HPコンテンツを誰に、どのような方向性で依頼するか協議した。	全美事務局、全美HP研究部会、株式会社パークウェーブ 出席者：8名 名簿は別紙
8月17日-9月27日	金沢21世紀美術館	全美アーカイブ整理作業	事務局が所有する、全美が過去に出版したあらゆる印刷物を整理し、PDF化およびテキスト化の下準備を行った。（PDF化の作業そのものは委託業者が行った。）	実務者：全美事務局、作業補助員（アルバイト）
10月2日-2006年3月16日	和歌山県立近代美術館	コンテンツ収集・編集作業	7研究部会をはじめとするグループに、サンプルを示しながらコンテンツの作成を依頼し、その送付を受け、送付を受けた内容について不明な点を問い合わせしながら、編集をおこなっていった。同時に全美アーカイブの著作権者に対し、HPの掲載の許可をもとめるための下準備を行った。全美各会員館のURLを収集し、全美HPに掲載した。またHPをもたない館15館の情報収集をおこないウェブページを作成した。その他のリンク集につき、情報収集をおこない、編集した。全国美術館会議 出版物一覧表を作成した。各部会幹事との情報交換をおこなった。	実務者：和歌山県立近代美術館、作業補助員（アルバイト）
10月9日-10日	金沢市市庁舎	コンテンツ検討全体会議	仮サイトを見ながら、コンテンツの内容を協議した。一般のひとにとって有益なコンテンツについて議論した。芸術拠点形成的コンテンツについて協議した。また、作業分担等を検討した。	出席者：18名 名簿は別紙
10月12日-2006年3月15日	和歌山県立近代美術館	OCR処理後の校正作業	全国美術館会議が発行してきた刊行物を光学読取装置（OCR）で処理し、テキストファイルに変換したものの精度は95パーセントほどであったので、この機械による読み取りミスを修正するために学芸員研修会報告書、総会報告書等77冊の校正作業をおこなった。	実務者：和歌山県立近代美術館、作業補助員（アルバイト）
12月2日-3日	金沢21世紀美術館	コンテンツ検討全体会議	各研究部会が作業状況の報告をおこなった。サイト上で原則として公開しない内容の案を協議した。芸術拠点形成的コンテンツについて再協議した。また、各部会のコンテンツ提供について話し合った。	出席者：19名 名簿は別紙
12月16日-17日	福島県立美術館	コンテンツ編集会議	リンク集の構成について協議した。HPの運営案を協議した。現段階のサイトの問題点について討議した。	出席者：8名 名簿は別紙
2006年1月8日-2月28日	三重県立美術館	英訳作業とりまとめ	英語版に掲載するコンテンツについて、執筆者・事務局と翻訳者の間に立ち、連絡・取りまとめをおこなった。	全美HP研究部会
2006年1月27日-3月16日	金沢21世紀美術館等	著作権のクリア	HPに全美アーカイブを再掲載するにあたって、著作権者をトレースし承諾を得た。	全美事務局、各研究部会
2月9日-10日	和歌山県立近代美術館	コンテンツ最終編集会議	最新の仮サイトを見ながらコンテンツとリンクの最終確認を行った。問題点、課題を拾い上げ、解決案を出した。芸術拠点形成的コンテンツ「人々と美術館」について実務的な協議をおこなった。	出席者：14名 名簿は別紙
3月15日-17日	金沢21世紀美術館 文化庁	文化庁に提出する報告書・CDの作成及び提出	金沢21世紀美術館にて、文化庁に提出する報告書・CDの作成をおこない、文化庁に提出した。	全美事務局、全美HP研究部会 名簿は別紙